

公文書は歴史資料

市史編さん室では7月20日(水)にけやき会館で、市職員向けの職場専門研修『情報公開の時代における市町村の資料保存と文書管理の課題』を行いました。講師を務めて下さったのは、元藤沢市文書館長の高野修氏です。文書館学の研究者として著名な高野氏ですが、藤沢市の職員として長年勤められただけに、行政の立場と実情、問題点等に触れながら講義が進められました。相模原市だけでなく、城山・津久井・相模湖各町の職員にも参加していただき、文書管理について改めて学ぶこととなりました。

当日は公文書保存の必要性や実態・課題等についてまとめられたレジュメ以外に、講師が実際に経験されたお話も沢山していただきました。たとえば、講師が訪れたルーマニアの教会では1,000年経ってもきちんと記録が残っており、今なお現用文書として使えるという事実に驚いた職員も多かったようです。また、ボストンの公文書館では犯罪者の記録もマイクロフィルムで自由に閲覧出来たそうです。無関係な人の記録が見られるのはプライバシーの侵害ではないのかと尋ねたところ、プライバシーは見た人が守るものだとの答えが返ってきたということです。初めから見せずにプライバシーを守る私たちと、見せた上で個々人が守る彼らとの違いは、情報公開のあり方について考えさせられます。

また、藤沢市文書館設立時のお話や、現在の藤沢市のシステムなどについてもお話いただきました。現在藤沢市では、全ての公文書が藤沢市文書館に集まるようになっていること、また、ポスター・チラシ等の作成に文書館長の合議が必要なため、その役目を終えた後も必ず資料として保存されるとのことです。公文書の作成者と管理者は別であるべきだという高野氏の考え方が生かされたシステムでした。

では、なぜこうして公文書を保存し、管理していくことが必要なのでしょう。高野氏は、公文書は自治体の記憶であり、それは行政側だけでなく、自治体の住民共有の財産である、とおっしゃっています。記憶の無い人間は未来に進めない、社会が発展していくために公文書はきちん



と保存され、必要なときにはいつでも活用できる状態にするべきだというお話に、文書館の必要性を実感しました。

相模原市では市史編さん室が必要と思われる公文書を保存するように努めていますが、公文書の歴史資料としての意味を一人でも多くの職員に理解していただくために今回の研修を行いました。

この研修のレジュメについては、市史ノート第3号(2006(平成18)年3月発行予定)に掲載する予定です。ぜひ御覧下さい。



相模原ものモ/事典⑤

消防車と救急車

右の写真は 1962(昭和 37)年に撮影されたものです。1958(昭和 33)年に市消防本部が発足し、消防車の後ろに見える消防署庁舎も完成しました。写真には写っていませんが、敷地内には望楼がありました。

また、下の写真は 1965(昭和 40)年に購入した救急車(トヨタ・メトロポリタン型)ですが、現在のものとはずいぶん形が違います。

これらの車両はその後、1973(昭和 48)年にはしご車、1993(平成 5)年には高規格救急車の配備など、充実が図られてきました。

市史現代図録編所収の「火災発生状況」のデータによれば、1958(昭和 33)年に市内で77件だった火災は2002(平成 14)年には272件に、また「事故別救急出動件数」によれば1963(昭和 38)年に313件だった救急出動が2002(平成 14)年には22,627件になっています。

参考：常設消防二十五年のあゆみ
(1984・相模原市消防本部)



相模原市広聴広報課所蔵



相模原市広聴広報課所蔵

進む神奈川新聞記事の整理活用作業

市史編さん室では、市史編さんだより第23号で紹介したとおり、1945(昭和20)年から1961(昭和36)年までの神奈川新聞記事を収集しました。

現在は、これを資料として活用するために目録化・データベース化する作業を行っています。実際の作業の手順は、まず、収集してきた神奈川新聞にくまなく目を通し相模原関連の記事を探します。その後、抜き出した記事の年月日、号数、見出し、記事内容の要約等をパソコンに入力していきます。

これが完成すると、パソコン上で多岐の分野にわたる相模原関連の記事の中から、調査したい

項目に関する記事を即座にピックアップして、いつ頃こんな記事が載っていたと簡単に探せるようになります。例えば、見出しの中で「相模線」というキーワードで検索すると、1947(昭和22)年には電化を要望したという内容の記事が出てきており、地元では早くから相模線の電化を切望していたことがわかります。

(1991(平成3)年3月、相模線は電化された。)



このような気動車（キハ30系）が相模線を走っていました



さて、この資料収集の苦勞話を少ししますと・・・

圖 書 → 凶 書

經 濟 → 經 濟

麥 → 麦

各々の矢印左側は、1945(昭和20)年当時の神奈川新聞の中に使われていた旧字です。これらは一例ですが、なじみがなく読むのに苦勞しました。皆さんは読めますでしょうか？



編さん室の動き (7月～8月)

月	日	内 容
7	1	市史編さんだより第25号発行 企画政策課等と主要事業ヒアリング(本庁) 県央地区行政センターへ鳥獣捕獲許可申請(12日許可) 現代編資料調査(個人宅、20日にも実施)
	5	市史編さん審議会公募委員選考委員会
	20	職場専門研修『情報公開の時代における市町村の資料保存と文書管理の課題』開催、講師：高野修氏(1～2ページに関連記事)
	28	沼津工業高等専門学校へ考古資料(黒曜石)分析依頼
	31	民俗部会開催
8	3	平成17年度第1回市史編集委員会開催
	17	民俗編巡検事前調査(上溝、23日に大沢も実施)
	24	自然編動植物合同調査(上大島・大野台)・・・写真
	25	平成17年度第1回市史編さん審議会開催



以下の刊行物を販売しています。お求めは、市史編さん室又は相模原市役所行政資料コーナーへどうぞ。なお、送料実費負担で配送の取扱いもいたします。

刊行物名	価格	大きさ・ページ数	刊行時期
相模原市史現代図録編	1,500円	A4判・296ページ	平成16年11月
相模原市史第1～7巻	1,900～4,500円	A5判・578～842ページ	昭和39～47年
相模原市史ノート創刊号	350円	A5判・112ページ	平成16年3月
相模原市史ノート第2号	700円	A5判・104ページ	平成17年3月

「さがみはら市史編さんだより」第26号

発 行 2005(平成17)年9月1日

編 集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-19 (市立博物館隣り)

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8039

E-MAIL : shishi@city.sagamihara.kanagawa.jp

ホームページ : <http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp> (相模原市トップページ)

(市のプロフィール⇒市史編さんについて または
観光・文化⇒市史編さん の順で御覧になれます。)